

わが

ITと自然の共存 田舎と都会のど真ん中 たぎざわ

若い研究学園都市

滝沢市は、岩手県の北西部、日本百名山である岩手山を頂き、県都盛岡市に隣接した、都市・農村の二つの性格が共存しているまちです。農業地帯では滝沢スイカ、非常に高い糖度と品質を誇るリング「はるか」などが特産物として栽培されています。一方、新興住



岩手山と滝沢市営業係長「ちやくぼん」

宅地が多く開発されており、都市部では子どもがいる若い世帯を中心とした移住者が多く、人口も微増傾向にあります。

岩手県のターミナル駅である盛岡駅までは車で20分程度であり、新幹線を利用すれば東京まで2時間30分程度で到着するほか、市内には二つの東北自動車道インターチェンジがあるなど、交通の便にも恵まれています。

また、市内には三つの大学・短期大学が立地しているほか、国や県の各種試験研究機関が集積しており、若い学生・研究者などが集う研究学園都市を形成しています。この強みと、市内の大学にソフトウェア情報学部が設置されていることを生かすため、「滝沢市IPUIノベーションセンター」を設置し、IT関連産業の集積を

図るとともに、企業、大学、行政のITを軸とした連携に取り組んでいます。

市民それぞれが「幸せ」を育む環境づくり

本市では、まちづくりのキーワードとして「幸福感」を掲げ、本年度から「第1次滝沢市総合計画後期基本計画」に基づき、市政を推進しています。これは、市民がそれぞれ持っている「幸せを感じる」と「幸せ」への取り組みを、市政はどのようにお手伝いできるか、といった視点で推進していくものです。

当然ながら幸せは人それぞれですが、幸せに関する調査を行ったところ、滝沢市民が幸福を感じる際に最も重要である要素は「心身の健康」ということが分かりまし



「人とのつながり」の拠点となるビッググループ滝沢

た。これを踏まえ、後期基本計画の展開戦略の一つとして「健康づくり」を掲げ、「健康づくりに関する各種の企画立案」や「企業・大学や庁内他部局との連携」などを進めるための専門の部署を新設し、健康という視点から経済・産業・地域づくりなど幅広い分野での事業展開を進め、市民主体の健康づくり活動の支援を行うこととしております。

若者の「心の定住」を目指す

もう一つの展開戦略として、若者定住を掲げています。これは、



市内外の若者がこれからの語る「タキサワコレカラカイギ」

前述の通り、本市に学生をはじめとした若者が多くいるということ、また市内の大学で行ったアンケート結果から、「(本市を含む)県内で就職したい」という若者が多くいるということを生かすための戦略です。そして、現実的な若者の定住には働き口が欠かせないことから、企業集積を図ることや起業支援、異業種連携により企業の成長を促し、働き口の確保・拡大に向けた取り組みを進めています。

一方、本市で学び、東京をはじめとする日本全国、または海外で活躍したいという若い人材も多々います。彼らに対して無理に「出

て行かないで本市で働いてくれ」と言うことは、彼ら自身の幸せにもつながりません。また、全国に本市ゆかりの人材が増えることは、ネットワークの形成にもつながることから、「市外で活躍したい人たちは、どんどん本市から飛び立って行ってほしい」ということを伝えていきます。

一方、出て行ってそこでつながりが途切れてしまうことがないよう、本市のまちや環境、人に対する愛着を持ったまま、さまざまなところで活躍してもらおうということとを大事にしております。そのために、広く小中学生から大学生、若者をターゲットに、本市に対する「愛着」を育てるような機会の創出を通じ、言うなれば「心の定住」を進めることとしています。

多様性を生かした挑戦

最近の傾向として、県外に就職を求める一方で、若い世代を中心とした「地元志向」ともいえるべき考え方も強まってきており、この共通のマインドを持った人たちが、市の内外を問わずつながりをつくるとともに、これまでのコミュニティにとらわれず、さまざまな主

体で行動を起こす市民・職員も出てきています。この流れを加速するため、市行政も応援し、結びつき始めた「人とのつながり」を生かし、市民と行政との連携を加速させるとともに、市行政においても税収外収入の創出などの新たな手法への挑戦を続け、市民の幸せの向上を目指しています。

これまで、人口が微増していた本市ですが、今後は人口減少に転じることは否めません。従来の良いものは生かしつつも、これからの環境の変化の中でも素晴らしい

プロフィール

- ◆ 面積 182.46 km²
- ◆ 人口 5万5374人
- ◆ 世帯数 2万3216世帯

〔将来都市像〕「人口日本一の村」から「住民自治日本一の市」へ

〔まちの特徴〕緑豊かなチャグチャグ馬コの里



滝沢市長 主濱 了



〔特産品〕スイカ、リンゴ、イワナ

〔観光〕岩手山、鞍掛山、相の沢キャンプ場、馬返しキャンプ場、春子谷地湿原、馬っこパーク

〔イベント〕チャグチャグ馬コ、岩手山山開き、滝沢市産業まつり、滝沢スイカまつり



若い市民・職員が連携して実施したクラウドファンディング勉強会

滝沢であり続けられるよう、前例がないものでも恐れずに、「幸福感」を軸とした挑戦を続けてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

諸力融合で暮らしの価値を高める ポストベッドタウンの日野

多様な顔を持つ日野市

日野市は、東京都心部からJR中央線・京王線で西へおよそ40分の位置にあり、都心への通勤利便性の高い郊外住宅地です。市内を流れる多摩川・浅川の水利を生かした稲作が中世紀末から行われ、市内を縦横に流れる農業用水路の総延長は116kmに及びます。また、江戸時代には甲

であり、その知名度を生かした市のプロモーションも展開中です。昭和初期になると、豊かな地下水のある環境を求めて、現在の日野自動車株式会社やコニカミノルタ株式会社、富士電機株式会社といった企業の大工場が多く立地し、戦後に内陸の工業都市へと成長する礎が築かれました。その一方で、市域南部の多摩丘陵には、なかつた高幡不動尊をはじめとした歴史に彩られた文化財や、多摩動物公園などが点在しています。

に増加しました。現在も人口が微増しており、基本計画で目標とした人口18万5000人を超えています。

一方、本市のような郊外、ベッドタウンのエリアは、団塊世代の居住人口比率が非常に高いことが特徴です。今後は、この世代の加齢により急速に後期高齢者が増加し、医療・介護の問題の深刻化が懸念されます。

また、産業の面では、1990年代後半からリーマンショックの後にかけて、本市に立地していた複数の大規模工場が相次いで移転・撤退し、地域の雇用・経済の面で大きな影響を受けました。

現在の本市は、豊かな自然と歴史、活力ある産業が共存する住宅地として発展を続けています。
**直面する
ベッドタウンの課題**

**課題を踏まえた
まちづくりへのチャレンジ**

本市は、都心郊外の住宅地として、高度経済成長時に人口が急速

これらの課題に対し、本市では、



高幡不動尊に集結した新選組まつりの隊士たち

た、江戸時代には甲州道中の宿場町である日野宿がにぎわい、幕末期に新選組隊士の土方歳三や井上源三郎らを輩出したことから、「新選組のふるさと」として知られています。本年は、土方歳三の没後150年を迎える年



子どもたちでにぎわう「黒川清流公園」

市内でもいち早く高齢化が進んでいたこの団地では、平成9年から団地再生事業が行われています。「高齢化しても安心して暮らし続けられるまちづくり」を目指して進められたこの事業も、約20年かけてようやく終盤に近づきました。この事業では、市とURが目標を共有・協力して民間事業者



ホストタウンとして登録されたウクライナと文化交流事業を実施



地域の暮らしからサービス創出を目指す「リビングラボ」

の開発を誘導し、商業施設や福祉・医療施設など、高齢課題や多世代居住に対応する新たな都市機能を整備しました。この取り組みは、URが進める医療・福祉拠点を基軸とする団地再生の先駆的なモデルとして、注目をいただいています。

また産業の面においては、企業や大学と連携し、医療、介護、モビリティなどをテーマに、生活に身近な課題を産業化する社会実証に向けた取り組みを続けてきました。このような事業を通し、地域課題の解決とイノベーション環境の醸成を目指しています。

平成30年度からは、住民と企業、大学、行政が継続的な対話により課題を深掘りする「リビングラボ」を開催し、企業や地域のNPOと連携したシェアリングエコノミーの実証にも取り組んでいます。

本市の目指す 「ポストベッドタウン」 生活価値の共創

これらのチャレンジは、本市がまち・ひと・しごと創生総合戦略の将来都市像に掲げた「ポストベッドタウン」生活価値共創都市を目指すものです。

かつて、日本の高度経済成長を支えてきた郊外住宅地、いわゆるベッドタウンは、今日では高齢化に伴う課題の象徴のように押ゆされることもあります。

しかしながら、その課題の解決を通し、新たな価値を生み出す可能性を秘めているといえます。本市の持つ多様性を生かし、さまざまな主体同士の連携や新たなつながりをつくり、地域内循環による持続的な社会モデル

をつくるという考え方がポストベッドタウンです。

令和2年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピックでは、本市は、ウクライナのホストタウンとして登録されました。ポストベッドタウンを実現するためには、多様性を尊重する意識が重要です。ウクライナをはじめとしたさまざまな国の応援や交流などを通して、異文化に対する理解の促進や、ダイバーシティ推進を未来

プロフィール

- ◆ 面積 27・55 km²
- ◆ 人口 18万6152人
- ◆ 世帯数 8万9434世帯

〔将来都市像〕ともに創ろう心つながる夢のまち 日野

〔まちの特徴〕東京都のほぼ中心部に位置し、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵を持つまち



日野市長
大坪冬彦



〔特産品〕ブルーベリー、ぶどう、梨、リンゴ、トマト、イチゴ、TOYODA BEER

〔観光〕京王百草園 都立多摩動物公園、高幡不動尊、新選組ゆかりの史跡

〔イベント〕ひの新選組まつり、日野市産業まつり、たかはたもみじ灯路、八坂神社例大祭、ひのよさこい祭

へつなげていきたいと考えています。

本市は、令和元年の「SDGs 未来都市」に選定されました。東京都では初めての未来都市です。2030年（令和12年）、またその先の未来まで持続可能な郊外都市「ポストベッドタウン」を目指し、パートナーシップ（諸力融合）により、住み慣れた地域で生き、看取られる、暮らし・福祉・医療の展開を図ってまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「やっぱり吹田」が実感でき、「もっと吹田」という期待に応えられる魅力ある都市を目指して

好循環を生み出し、
持続可能なまちへ

大阪市北部に隣接する吹田市は、日本初の大規模ニュータウンとして知られる千里^{せんり}ニュータウンの開発とともに、ベッドタウンとして発展しました。

昭和45年には日本万国博覧会が開催され、その玄関口として整備された吹田ジャンクションは、関西圏の大動脈である名神高速道路や、中国自動車道、近畿自動車道をつなぐ国土軸上の要衝となっています。また、市内には15駅、近隣駅を含めると21駅あり、新大阪駅や大阪国際空港、都心部へのアクセスに優れています。

さらに、大小約500の公園、九つの図書館、11の児童会館・児童センター、15の病院、五つの大学が



写真手前から「市立吹田市民病院」「駅前複合施設」「国立循環器病研究センター」

あり、学術研究施設や住宅にとつて魅力的な環境であることから、約20年前から毎年増え続ける人口は、ここ数年急激に増加し、平成29年には37万人を突破しました。

そのような中、公共施設のリニューアル、上下水道や道路整備費用を「まちの固定費」に位置付け、将来を見据えた投資を適切に行うことで、好循環を生み出し、持続可能なまちに向けた取り組みを進めています。

健康寿命の延伸をリードする健都のまちづくり

JR岸辺駅（大阪駅から12分）の北側、旧国鉄吹田操車場跡地など約30haの地域を「北大阪健康医療都市（健都）」と名付け、「健康・医療のまちづくり」のコンセプトの下、循環器病の予防や健康づくりの推進、市民参加型モデルの創成など、さまざまな取り組みを進めています。本年6月に開催されたG20では、各国の保健担当大臣が視察に訪れるなど、国外からも注



健都レールサイド公園で開催した「健康づくり講座」の様子

目を集めています。

この健都では、本年7月に移転オープンした国立循環器病研究センター（通称「国循」）を核に、国立健康・栄養研究所や、ヘルスケア企業などで構成される国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）の形成が着々と進んでいます。また、市立吹田市民病院（平成30年12月移転オープン）、ホテルやクリニックモールを備えた駅前複合施設（平成30年11月オープン）、地域包括ケアシステムを具体化するウェルネス住宅（本年12月入居開始）が立地するなど、多



心地よい雰囲気の中、四季折々の公園の魅力が楽しめる「bird tree」

様々な事業主体が集積しています。さらに、国循や市民病院の協力・監修を受けた27基の健康遊具や4つのウォーキングコースを設けた「健都レールサイド公園」を整備し、市民が健康づくりを実践できる場となっています。また、令和2年11月には、カフェスペースや健康講座が開催できる多目的ルームなどを備えた多機能な図書館「健都ライブラリー」をオープンし、健康づくりを支援する新たな拠点とします。

これらの施設が自立、分散、協調することで、まち全体の機能や価値を高め、「医療イノベーション」と新しいライフスタイルで健康

都市の魅力を高め、さらなる飛躍へ

「suita」(吹田)に「able」(〜できる)を付けて「吹田で実現できる」という意味を持たせ、「ふさわしい、ぴったりの」などの意味を持つ「suitable」と重ね、「暮らしにはぴったりなまち『suitable city』」を市のキーワードにシ

寿命の延伸をリードするまち」が機能し始めます。

市民の暮らしを支えるため、自治権限を強化

令和2年、本市は市制施行80周年を迎えるとともに、中核市へと移行します。新たな権限を最大限活用し、特に医療や保健衛生分野において、よりきめ細かで高度なサービスを提供することで、市民の暮らしをしっかりと支えていきます。

また、本市の中核市移行により、兵庫県西宮市と尼崎市、大阪府豊中市の4市が連担した全国初の中核市圏域が誕生します。都道府県境界を越えた「持続可能な共生圏域づくり」は、高いポテンシャルを有する連携圏域モデルの一つになると考えています。

ティプロモーションを推進しています。本市には、大阪万博のシンボル「太陽の塔」や大型複合施設「EXPOCITY」、Jリーグガンバ大阪のホームスタジアム「Panasonic Stadium Suita」(市立吹田サッカースタジアム)など魅力あるスポットが数多くあります。また、本年2月には阪急南千里駅前の公園内に誘致したカフェレストラン「bird tree」がオープン。四季を通して高質な公園を楽しめ

プロフィール

- ◆ 面積 36.09 km²
- ◆ 人口 37万2429人
- ◆ 世帯数 17万2872世帯



吹田市長 後藤圭二

〔将来都市像〕誰もが安心して健やかに快適に暮らし続けられるまち
〔まちの特徴〕交通の利便性に優れ、大阪都市圏における住宅都市であるとともに、暮らしを支える生活関連施設や、多くの企業、大学・研究機関、文化施設が充実した複合型都市

〔特産品〕吹田くわい、焼酎「芽吹」
〔観光〕万博記念公園、アサヒビール吹田工場、健都レールサイド公園、国立民族学博物館、旧西尾家住宅、旧中西家住宅、Panasonic Stadium Suita (市立吹田サッカースタジアム)
〔イベント〕吹田まつり、吹田産業フェア、千里の竹あかり、すいたオータムフェスタ



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

維新の志士の魂を受け継ぎ 未来に向かって発展するまち 萩

明治維新胎動の地

萩市は山口県北部に位置し、慶長9年（1604年）の毛利輝元による萩城築城から廃藩置県に至るまでの約260年間にわたり、毛利家36万石の城下町として発展したまちです。幕末には、吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文らの明治維新の原動力となった

人材を数多く輩出したことから、「明治維新胎動の地」と呼ばれています。

そのため、明治改元から150年の節目の年であった平成30年を中心とした平成29年度からの3カ年を「萩・明治維新150年祭」と銘打



吉田松陰の志を継ぐ維新志士たちを数多く輩出した「松下村塾」



約1400万年前のマグマの熱を受けて誕生した「須佐ホルンフェルス」

ち、さまざまな記念事業を実施することにより、明治維新胎動の地「萩」を全国に向けて発信していきます。

また、平成27年に「明治日本の産業革命遺産」として登録された世界文化遺産や400年前の古地図がそのまま使える町並みなどの「歴史・文化」、日本ジオパークに

認定された萩ジオパークに代表される「自然」、その豊かな自然環境

に育まれた「食」資源など、毎年多くの観光客の皆さまに本市の持つ魅力に触れていただいています。

暮らしの豊かさを

実感できるまち

本市は、全国に先駆けて超高齢社会に突入し、若年女性人口と出生数の減少、社会増減のマイナスなど急激な人口減少により、消滅可能性都市にも名を連ねる状況にあります。また、少子高齢化や人口減少を背景に、地域社会を支える人材が不足するなど、数多くの課題に直面しています。

この難局に市民と行政が一体となって立ち向かうべく、平成30年度に政策体系の最上位となる「萩市基本ビジョン」を策定しました。

目指すまちの将来像「暮らしの豊かさを実感できるまち」を実現するため、「医療費助成の拡充による子育て支援」「住民主体の生活支援サービス等を提供する団体への車両の配置」「住民とともにつくる中山間地域振興計画『夢プラン』の策定」「地域の実情に合った公共交通ネットワークの再構築」など、本市独自の取り組みに次々と挑戦しているところです。

産業活力があふれる

まちづくり

転出超過が続く本市において、若年層の移住・定住を促進させるためには、働く場所の確保は欠かせない課題です。そこで、本年度を「産業再生セカンドステージ」と位置付け、地域産業の振興や起業・創業、企業誘致に取り組んでいます。

その一つとして、山口大学と山口銀行との連携協定に基づき、山口銀行の閉鎖された出張所を借り受け、1階に学生のフイールド



「長州ファイブジュニア」の英語による研修報告会

の伴走型相談所の「萩市ビジネスチャレンジサポートセンター Hagibiz（ハギビズ）」を令和2年1月（予定）に開設し、地域の活性化に全力で取り組みます。

また、産官学金の連携による「萩ビジネスプランコンテスト」を平成30年度から実施するなど、地域経済に活力を生み出す起業・創業を促進しています。

本市の産業再生を次のステージに進めるためには、市内で頑張る中小企業の活性化が不可欠となります。経営者とともに売上増加策を考えるなど、事業者の目線に立ち、ワンストップかつ継続的に支援する「E Biz（エフビズ）」モデル

ワークなどの活動拠点「山口大学サテライトラボ萩」、2階は、創業間もない事業者や起業を目指す方を支援するシェアオフィス「萩市インキュベーションセンター」として整備し、本年度から運用を開始しました。

新しい時代を切り開く ひとつづくり

本市は、明治維新に活躍した多くの人材を輩出した「ひとつづくり」のまちでもあります。幕末に英国へ密航留学し、近代日本の礎を築いた伊藤博文ら「長州ファイブ」にあやかり、毎年、市内中学生5人を長州ファイブジュニアとして派遣し、ロンドン大学での語学研修や文化交流活動を行っています。

また、急速に進展するグローバル化の中で、豊かな向学心と高い志を持った青少年に対し、「世界大学ランキング」上位50位内の大学への進学を支援する「萩市グローバル50奨学金」事業を新設しました。

これらの事業は、次代を担う若者たちが、グローバルな感覚や視野を持ち、全国や世界で活躍できる人材の育成と、将来、本市に希望と活力をもたらしてくれることを期待して実施するものです。

さらに、11月30日から萩藩校明倫館創建300年を記念して「全国藩校サミット萩大会」を開催します。萩の地で脈々と受け継がれる「ひとつづくりのまち萩」を

全国に向け、発信したいと考えています。

そして、明治維新胎動の地として、先人からの志と進取の気風を受け継ぎ、次代を担うひとつづくりと新しいまちづくりに果敢に挑戦し、新たな時代を切り開いていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 698・31km²
- ◆ 人口 4万6826人
- ◆ 世帯数 2万3396世帯

〔将来都市像〕暮らしの豊かさを実感できるまち

〔まちの特徴〕江戸時代の地図がそのまま使え、城下町のたたずまいが今もなお現存しているまち

〔市町村合併〕平成17年3月6日、萩市、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村による対等合併

〔特産品〕萩焼、萩ガラス、萩魚（あまだい、ケンサイキカ）ブランド名…



萩市長
藤道健二



〔観光〕世界文化遺産（萩城下町、松下村塾、萩反射炉、大板山たたら製鉄遺跡、恵美須ヶ鼻造船所跡）、日本ジパーク（須佐ホルンフェルス、明神池、他）、菊屋家住宅、松陰神社、萩・明倫学舎、萩博物館、道の駅「萩しまーと」「萩往還」

〔イベント〕萩・椿まつり、萩焼まつり、萩・大茶会、萩・夏みかんまつり、おしくらごう、萩夏まつり、萩時代まつり、維新の里萩城下町マラソン



萩藩校跡に建つ日本最大の木造校舎「萩・明倫学舎」

※面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。